

序

徳島県知事 三 木 申 三

このたび徳島県立農業試験場におきましては、明治26年に名東郡加茂名村(現徳島市鮎喰町2丁目)に設立されていた農商務省農事試験場四国支場の廃止の後をうけて、明治36年徳島県農事試験場として発足してから80周年を迎えました。

顧みますとこの80年間、社会経済情勢の変化に伴い、徳島県の農業も大きく変化し、藍から養蚕へ、さらに大平洋戦争当時の主食の増産から野菜、果樹、畜産などの生鮮食料品の生産へと発展するとともに数多くの新しい技術の開発や導入が行われてまいりました。ことに戦後の技術革新は目ざましく、新しい機械や資材を利用し、農業生産の効率化をはかるとともに、有史以来の念願でありました米の自給を達成するなど農業の飛躍的發展を見ましたが、これらに果たしてまいりました農業試験場の役割は大きく、その功績は高く評価されております。

また農業試験場では戦前には農家の技術指導にも当り、併設されておりました技術員養成機関では数多くの優秀な卒業生を送り出し、現役の技術指導者として、また中堅農家の経営者として活躍されているところであります。



しかしながら、最近の農業は米、ミカンなど大部分の農産物が過剰基調にあり、さらに果樹、畜産にみられるように外国からの輸入拡大を強いられ厳しい時代を迎えております。

この対策として私は知事就任以来、地域特産物の育成や生鮮食料品供給基地の大型化を推進しておりますが、さらに長期的展望に立てば、食糧の自給率の向上、安定生産などもあり、農業試験場の今後の活躍に期待するところ誠に大なるものがあります。

このような状況下に80周年を迎え、記念誌を発刊することになりましたが、単なる研究成果のとりまとめばかりでなく、それぞれの研究課題を必要とした時代の背景や成果の普及効果などについても記載しており、いわば徳島県の農業技術史でもあります。

この輝かしい貴重な成果が今後の研究に生かされ、徳島県の農業発展に貢献されんことを念願しております。

昭和58年12月

